



ASLE-Japan / 文学・環境研究会

NEWSLETTER

The Association for the Study of Literature and Environment in Japan

September 1, 1994, No.1

ASLE-Japan / 文学・環境研究会 発足 !!

代表

野田 研一 (金沢大学)

副代表

高田 賢一 (青山学院大学)
大神田丈二 (山梨学院大学)

書記

土永 孝 (北海道大学)

会計

外岡 尚美 (青山学院大学)
成田 雅彦 (専修大学)

監事

平石 貴樹 (東京大学)

運営委員

宮下 雅年 (北海道大学)
石幡 直樹 (東北大学)
岡島 成行 (読賣新聞)
中村 邦生 (大東文化大学)
笹田 直人 (宇都宮大学)
太田 雅孝 (大東文化大学)
朝比奈 緑 (慶應義塾大学)
村上 清敏 (金沢大学)
西村 頼男
(四天王寺国際仏教大学)

伊藤 詔子 (広島大学)
木下 卓 (愛媛大学)
高橋 勤 (九州大学)

ニューズレター編集委員

大神田丈二
石井 倫代 (芝浦工業大学)

会誌編集委員

上岡 克己 (高知大学)
山里 勝己 (琉球大学)

ASLE-Japan / 文学・環境研究会設立総会が、去る5月22日(日)、午後1時30分より熊本大学教養部(F32教室)にて主に以下のような内容で開催されました。

第1部 報告および協議

第2部 講演

- ・ASLE-U.S. 会長 スコット・スロヴィック氏
- ・読賣新聞 岡島成行氏

第3部 茶話会 (今後の活動への意見交換)

第1部は、司会上岡克己氏、書記伊藤詔子氏によって進められ、設立準備会世話人野田研一氏、大神田丈二氏による設立準備会の経過報告が行われた後、提案事項1) 本会名称、2) 会則、3) 役員選出、が検討され、協議の結果全会一致で承認されました。(その詳細については添付資料をご覧ください。) 協議の過程では、本研究会の基本に関わる議論が交わされ、大変有意義なものとなりました。

第2部では、第1部に引き続き上岡氏の司会により、本研究会設立に終始支援を惜しまれなかったASLE-U.S. 会長スコット・スロヴィック氏の講演、およびやはり準備会段階から会の設立に尽力して来られた読賣新聞解説部の岡島成行氏の講演を聴きました。スロヴィック氏の講演はASLE-U.S.の設立経緯や基本理念に関わる貴重な示唆に満ちた講演でした。私たちが既成の組織や枠組みにとらわれない自由な雰囲気を創り出したいと思います。また、会員であり運営委員でもある岡島成行氏からは、アメリカにおけるネイチャーライティング隆盛の背景に、環境や自然に対する地道ながら持続的で歴大な文化的かつ実践的蓄積が存在することへの注目が喚起され、文学研究が見落としがちな視点としてこれまた今後の指針を提起する講演でした。

第3部では、会計、ニューズレター編集委員、会誌編集委員より今後の方針について報告がなされ、その後茶話会を経てすべての予定が終了しました。

設立総会開催に当たっては多数の方々のご協力をいただきました。とくに熊本大学の池田志郎氏には会場の手配から茶話会の準備まで、行き届いたご配慮をいただきました。おそらく氏のご助力がなければ設立総会の開催はきわめて困難なものになっていたはずで、有り難うございました。この総会を以て、研究会はいよいよ本格的なスタートを切ることになりました。すでに岡島氏によって読賣新聞(全国版)5月25日付記事で本研究会の設立が紹介されておりますように、会の発足は喜ばしいことであると同時に、人文科学分野での環境研究の立ち遅れに一定の寄与を期待されるという意味で、大きな社会的責任も負うこととなります。なお、設立総会時点での入会予定者は6.1名(うち、大学院生5名)であったことを併せてご報告しておきます。

ASLE-Japan/文学・環境研究会 発足に寄せて

野田研一 (ASLE-J 代表)



昨年秋以来、設立をめざして準備してきたASLE-Japan/文学・環境研究会が、有志の努力の結果、発足するにいたりました。人間が自然や環境とどうかかわってきたか、文学はそれをどうとらえてきたか。考えてみればじつに何気なさそうな研究テーマです。じっさい、会員の皆さんの中には、こうした主題を個々の作家のみならず、歴史的・系統的に研究してこられた方々が多くおられます。ただ、残念ながら、これまでそれらの研究がかなり孤立したかたちで存在していたことは否めません。ASLE-Japan/文学・環境研究会のような研究会の形成は、そうした孤立した島嶼のような研究をネットワーク化し、相互的な刺戟をもたらすと同時に、そのようなネットワークをベースに、さらに次のステップへ向かう可能性を探るためのものと位置づけることができると思っています。

ただ、現在あるいは当面、本研究会が抱える主要な問題点は、このようなテーマそのものに内在しているとも言えます。〈自然〉という言葉の意味には少なくとも6通りあると指摘したのは観念史家アーサー・ラヴジョイだったでしょうか。この意味の錯綜は、私たちの研究の内容や方向の錯綜を暗示するに難くはないでしょう。おそらく、問題を「文学の中の自然」に絞り込んではいても、事態がさほど変わるとは思われません。百家争鳴という言葉を思い浮かべずにはいられません。一面ではこのような錯綜は今後の道のりの厳しさを予想させます。しかし、同時にこれは避けては通れない錯綜であり、またさまざまな議論の交錯を予想させるという点では、むしろ開かれた議論の場の形成にはもってこいの状態だとも言えます。まして、地球環境の問題という、いわば全人類史を向こうに回さなければならないようなテーマにもかかわってくるとするならば、容易に合意形成が可能だと考える方が間違っていると言わざるをえません。

じっさい、スタートはしたものの、事務的な遅滞は別としても、今後どのような方向にこの会を進めて行けばいいのか、まだまだ暗中模索の状態です。これは「文学と自然・環境の関係を考える」というテーマの多様性が強い何ものかであるに違いありません。多様だからまとめる必要はない、というつもりはまったくありません。ただ、それを性急に「まとめる」ような方向はとらず、むしろそれがいかに「多様」であるかを確かめる作業から始まるかも知れません。現在は主に英米文学関係の研究者がメンバーの大勢を占めていますが、今後はむしろそれ以外の場からの参加者が増えることが予想されます。じっさい、私たちは日本文学の問題を避けて通ることはできませんし、またASLEの国際化という観点から言えば、私たちが帰属しているアジアという観点も重要になってくると思われれます。私たちが扱おうとする問題は個人の営みとしては手に余るほど大きなものになる可能性があります。だからこそ、ASLE-Japanというネットワークが必要なのではないでしょうか。

生まれたばかりの組織です。方法論一つとっても確立して

いません。個々のメンバーの活動や提案がそのまま会の展開に反映してゆく可能性を大切にしたいと思います。現在のところ、地域別の談話会や、ニューズレターなどが意見交換のための主要な媒体です。どうぞ積極的にさまざまなご提案をいただきたいと思います。事務的なレベルでも、私たちはいわば素人集団です。皆さまの多様なご協力が私たちの支えとなります。どうぞ忌憚のないご意見をお寄せ下さい。

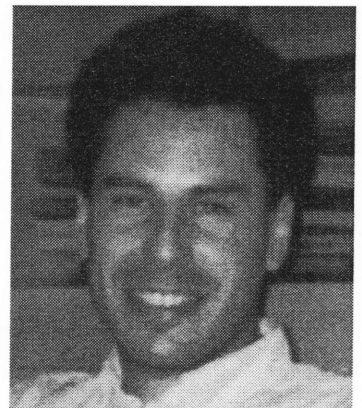
Farewell, Thank You, Best Wishes: A Message from Scott Slovic

As I near the end of my eleven-month stay in Japan, I want to take this opportunity to thank the members of ASLE-Japan for countless acts of kindness and generosity. My work with Japanese scholars and students this year has been delightful and inspiring--and, to be honest, rather exhausting. I will look forward to my own future visits in Japan and to welcoming Japanese "ASLEites" who come to America for meetings or research (or simply for fun).

At times this year, I must admit, I've felt like a door-to-door salesman, hawking my wares (nature writing and ecocriticism) in classrooms and lecture halls from Sapporo to Naha. Obviously, this "personal touch" has contributed something to the spread of this field in Japan. But it is extremely important, I think, that the study of "literature and environment" in Japan respond to the intrinsic value and challenge of the questions/issues raised in literature concerned with the relationship between human beings and "place" (urban, suburban, rural, wild), that this scholarly movement not become a mere "cult of personality." The field of "nature writing scholarship" is much bigger than me, although I may seem like "Mr. Nature Writing" to many of the people who first learned of the genre from me this year.

There are many, many specific projects for ASLE-Japan members to work on, including innumerable research topics, bibliographies of Japanese scholarship and Japanese "nature writing," regional/local study groups, and the organization of conference symposia. But I would also like to suggest several specific ways in which ASLE-J and ASLE-USA can cooperate:

- 1) I hope that members of ASLE-J will regularly be able to attend either the Western Literature Association Conference (each October) or special ASLE conferences such as the one that will take place at Colorado State University in June 1995;
- 2) there are many opportunities for ASLE-J with American specialists in the field--getting financial support for such visits should be a priority for ASLE-J;
- 3) ASLE-J members can contribute articles and reviews to such publications as *ISLE: Interdisciplinary Studies in*



Literature and Environment (contact Professor Yamazato at the University of the Ryukyus for information); and 4) Japanese students should be encouraged to come to the U.S. for graduate studies in literature and environment--see ASLE's forthcoming *Graduate Handbook for the Study of Literature and Environment*. These are just a few suggestions.

So, for now, let me say farewell, thank you, and best wishes. I have had a splendid year in Japan and I am grateful for your hospitality and energy. My ASLE-USA colleagues and I will look forward to continuing the collaboration with ASLE-J that has begun this year.

※スコット・スロヴィック氏はASLE-U.S.の会長で、サウスウエスト・テキサス州立大学準教授です。

ASLE-Japan / 文学・環境研究会 会則

第1条 名称

本会の名称を「ASLE-Japan / 文学・環境研究会」(The Association for the Study of Literature and Environment in Japan: ASLE-Japan と略称)とする。

第2条 目的

本会の目的は文学における自然・環境に関する内外の研究・情報を交換・共有することである。この目的に沿った以下の活動を行うものとする。

- (1) 研究会および談話会等の開催
- (2) 会誌およびニューズレターの発行
- (3) 内外学会、研究会との交流
- (4) その他必要と認められる事業

第3条 会員資格

第2条の主旨に賛同する者は会員になることができる。

第4条 会員の入会と退会

本会への入会と退会は事務局に申し込み、総会において決定する。

第5条 会費

本会の会費は年額3,000円とする。ただし、学生会員は年額2,000円とする。会計年度は4月1日より翌年3月31日とする。

第6条 役員と役員の選出

本会に次の役員を置き、役員は総会において選出する。

代表 1名 副代表 2名 書記 1名 会計 2名 監事 1名
運営委員 若干名 ニューズレター編集委員 2名 会誌編集委員 若干名

第7条 役員の規定、職務分掌、役員会規定

- (1) 代表は本会を代表し、会務を総轄する。
- (2) 副代表は代表を補佐し、代表に事故があった場合、その職務を代行する。
- (3) 書記は役員会および総会の議事録を作成し、代表・副代表を補佐する。また、会員名簿を記載、維持する。
- (4) 会計は本会の会計事務を担当する。
- (5) 監事は本会の会計を監査する。
- (6) 運営委員は研究会に関する重要事項を審議し、また各地区での談話会又はテーマ別部会を企画・運営する。
- (7) ニューズレター編集委員はニューズレターの立案・編集を行う。
- (8) 会誌編集委員は会誌の立案・編集を行う。
- (9) 役員会は役員によって構成され、本会の重要事項を審議する。

第8条 役員任期

第6条および7条で規定された役員任期は原則として2年とする。ただし、再任は妨げない。

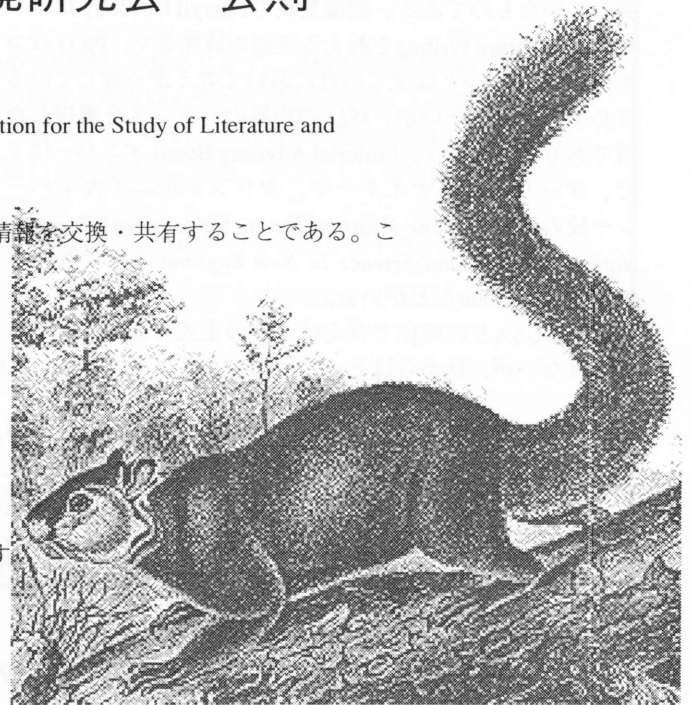
第9条 事務局の規定

本会の事務局は代表の所属する勤務先に置く。

第10条 総会

本会は原則として毎年1回総会を開き、会則改正、役員選出、会務報告、事業計画策定等を決定する。定足数は委任状を含む2分の1、議決は有効投票数の3分の2以上とする。

附則 この会則は1994年5月22日から施行する。



AUDUBON: Dusky Squirrel



ISLE: Interdisciplinary Studies in Literature and Environment

について

山里勝己 (琉球大学)

1993年に刊行されたISLE: *Interdisciplinary Studies in Literature and Environment* は、編集長のPatrick D. Murphyがカリフォルニア大学デイヴィス校博士課程に在学中からその刊行を企画していたものである。副編集長のCheryll Glotfeltyはネヴァダ大学でNature Writingを教える気鋭の研究者で、Ph.D.はコーネル大。Murphyとは全ての点において考えが一致しているとは必ずしも言えないが、ISLEの内容のバランスを重視した起用であるといえよう。Editorial Advisory Boardメンバーは7人で、ゲリー・スナイダーや、カリフォルニア大学パークレー校の教授で、*The Death of Nature*や*Ecological Revolution: Nature, Gender, and Science in New England*などで知られるCarolyn Merchantなどがいる。

ASLE-USAとの関係で言えば、その正式の機関誌ということではないが、秋からはそういう形になるようである。ISLE

の読者の8割がASLE-USAのメンバーであるという事情を考えれば、機関誌化の動きは当然といえよう。ISLEの編集・印刷に関しては、近いうちにUniversity of Nevada, Renoが印刷を引き受けることになるようだ。

第1巻1号は450部刷ってほとんど売り切れの状態。予約購読者数は現在約400。第1巻2号は650部印刷している。第1号は注文が多いので増刷を検討中。現在第2巻第1号の準備に入っているが、Ecofeminismの特集になる。第1巻第1号は、"Positions: Ecology, Feminism, and Thoreau"と題した刺激的な特集を組んだが、当然の事ながら、毎号特集を組むのはむずかしい。

ISLEは、必ずしも英米文学に関する論文だけに限らず、今後は他の文学に関する論文も掲載するが、純然たる学術論文だけでなく、教室での実践、コミュニティーでの実践、あるいは文学のカリキュラムに関するエッセイなども掲載する。将来は国際的な問題を扱った特集を組むことも計画している。

日本からの貢献ということ言えば、日本のNature Writingに関する短い論文をいくつかまとめて投稿して特集を組むことも可能であろう。日本人の自然論、あるいは宮沢賢治特集など、どうであろう。皆様からの提案をお待ちしたい。



UNRにおける Nature Writing Seminar

赤嶺玲子 (ネヴァダ大学・院生)

University of Nevada, Renoの大学院英文学科には、近年アメリカで初めての「文学と環境」のコースが開設された。ここでは、Dr. Cheryll Glotfeltyの指導のもとにecocriticism (ecological criticism)が多角的に研究されていて、1993年秋の学期には「Literature of the Wild」というタイトルでアメリカ自然文学について学ぶクラスが開かれた。

このクラスでは、wildernessとcivilizationという二分法のパラダイムを用いてnature writingを読み、アメリカ文学の伝統の中の自然観の変遷をたどった。シェークスピアの*Tempest*を文明と自然、ヨーロッパと新大陸の関係を描いた寓話として読むことから出発し、Emerson、Thoreau、Muir、Mary Austin、Leopold、Abbey、Annie Dillard、Gary Snyderによるエッセイに、CooperやJack Londonの小説、Robinson Jeffersの詩、Susan Griffinのエッセイをおりまぜて読んだ。またこれらのテキストと平行して、*Western American Literature*や1993年に刊行されたISLE (*Interdisciplinary Studies in Literature and Environment*)等の学術誌や、*The Idea of Wilderness* (Max

Oelschlaeger, 1991)等のecocriticismの研究書から、それぞれの作家に対する研究論文が取りあげられた。1人の作家に対して3、4編の立場の異なる研究論文が選ばれ、それらの比較、批評に基づいて討議がなされた。課題として毎週テキストと論文についてのresponse paperを提出し、交替でプレゼンテーションを担当し、2度conference paperを提出した。さらに文学と環境に関する大規模な学会への出席が奨励され、ecocriticismの担い手達との幅広い意見交換の場が持たれた。

クラスでの討議は常に活発であった。nature writer達と野性の自然に対する畏敬の念や環境破壊への危惧を共有し、鋭い文明批判の意見も出された。クラスの始めに設定したwildernessとcivilizationのパラダイムは崩壊し、bioregionalism、ecofeminism、deep ecology等の観点の可能性が模索された。環境の中での人間の新しい生き方、自然と文明の中の女性の位置、自然観と宗教の関係、人種問題と環境破壊の関係等、このクラスが提供したテーマは多様であったがどれも現代アメリカの諸相を反映した問題であり、アメリカ人の、そして人間のアイデンティティに深く関わる問題であった。アメリカ大陸に根をおろした自然文学の伝統は、このポストモダニズムの時代において新しい人間のあり方の追求と密接に結びつき、アメリカ文学研究の中で特別な価値を持ちつつある。先駆的に文学と環境について教えるこのクラスの意義は大きい。

シラバス紹介

北九州大学一般教育科目「文学と自然」：講義（200名）1994年度
吉崎康博（北九州大学文学部）

- 第1講 文学とは・自然とは、自然観の類型
第2講 自然観・価値観の歴史の変遷
第3講 自然中心のギリシャ・ローマ文化 Virgil, *Eclogue*
第4講 悪魔としての自然1（イギリス） Milton, *Comus*
第5講 悪魔としての自然2（アメリカ）
Hawthorne, "Young Goodman Brown"
第6講 神の摂理の啓示としての自然
Wordsworth, "Tintern Abbey"
第7講 自然に学ぶとは1 Emerson, *Nature*
第8講 自然に学ぶとは2 Thoreau, *Walden*
第9講 自然と共に生きる Leopold, *A Sand County Almanac*
第10講 自然の一部としての人間 Faulkner, *The Bear*
第11講 自然対人間社会 Steinbeck, *The Pearl*
第12講 新しい文学における自然
Alice Walker, *The Temple of My Familiar*(1)
第13講 新しい文学における自然
Alice Walker, *The Temple of My Familiar*(2)
第14講 新しい文学における自然
Alice Walker, *The Temple of My Familiar*(3)
第15講 自然環境の問題
1学期末試験（持ち込み可）
- 第16講 人間の中の悪魔的自然
Hawthorne, *The Scarlet Letter*
第17講 動物より劣る人間の現実
Twain, *The Mysterious Stranger*
第18講 人間の自然な生き方 Dreiser, *Sister Carrie*(1)
第19講 人間の自然な生き方 Dreiser, *Sister Carrie*(2)
第20講 人間の自然状態は不条理 Camus, *L'etranger*
第21講 人間の自然状態に苦しむ西洋文学とそれを受容する日本文学
Beckett, *Happy Days* 対 安部公房『砂の女』
第22講 不条理の自然状態をいかに生きるか 1
Hemingway, *The Old Man and the Sea*
第23講 不条理の自然状態をいかに生きるか 2
Steinbeck, *To a God Unknown*
第24講 不条理の自然状態を生き抜いた日本人
深沢七郎『楢山節考』（1）
第25講 不条理の自然状態を生き抜いた日本人
深沢七郎『楢山節考』（2）
第26講 現代社会を自然に生きる方法
深沢七郎『東京のプリンスたち』
第27講 SFにみる人間の自然の現実 1
Asimov, *The End of Eternity*
第28講 SFにみる人間の自然の現実 2
Asimov's robot stories
学年末試験（持ち込み可）

将来、計画されております。

Association for the Study of Literature and the Environment: Bibliography 1990-1993

ASLE-U.S.より1990年～93年に出版された関連書籍、論文、学位論文約700件に解説を付した書誌が刊行されました。1冊\$6.50。小切手を下記に送付すれば入手することができます。

Alison B. Wallace
HC78 Box 200
Unity College of Maine
Unity, Maine 04988
U. S. A

ネイチャーライティング邦訳書リスト
このほど、宝島社と東京書籍の編集担当者が中心となり、出版各社の協力によ

る、上記のような文献リストが作成され、関連出版物の付録として活用されることになりました。近刊予定を含め全部で151冊にものぼっています。私たちの研究にとっても裨益するところ大だと思います。

中国・四国支部談話会報告

5月26日（日）、13:00から愛媛大学教養部にScott Slovic氏を迎えて初めての談話会が開かれました。伊藤詔子（広島大）、上岡克己（高知大）、横田由理（広島中央女子短大）三氏による精緻な読みに支えられた発表とSlovic氏のネイチャー・ライティングに関する話に時間はまたたく間に過ぎ、予定の2時間を越えて16:00頃に閉会となりました。前日の中・四国アメリカ文学会でのSlovic氏の講演（*American Nature Writing: The Thoreurian Tradition*）を聞いたかたがた

も出席され、13名による談話会となり、第1回目としては盛会であったと言えるでしょう。会員以外の出席者の方が多く、もっと会員数を増やさなければならぬと思いましたが、開かれたこのような会を地道に続けてゆくことがまずは肝要でしょう。

ところで、Slovic氏は前日松山城、子規記念博物館、道後温泉を訪れ、当日の午前中には近くの伊予市在住の自然農法家、福岡正信さんを訪ね、自然農園（と言っても山ですが）を2時間近くも歩きながら談笑し、実のついた李の枝をもらって大喜びでした。福岡さんには、春秋社刊『わら一本の革命』（*The One-Straw Revolution*）等の著作がありますが、Slovic氏は本書を読んで以来ぜひ会いたいと思っていた人に会えて、嬉しそうでした。（木下卓）

（次頁に続く）

教科書版ネイチャーライティング・
アンソロジー

スコット・スロヴィック編著、生田省悟・大神田丈二・上岡克己・横田由理氏の共同注釈による英語テキスト *Worldly Words: American Nature Writing for Students* (ふみくら書房) が来年4月刊行をめざして作業を開始しました。ネイチャー・エッセイのみならず環境問題に関する新聞記事等も組み込んだ全12編のアンソロジーです。ご期待下さい。

『科学朝日』7月号(朝日新聞社)のコラム「私の本棚」で、巽孝之氏が「エコロジー文学」と題して「ハイテク以後のエコロジーはどのように可能か」という興味深い問題提起をしておられます。ネイチャーライティングの勃興を視野に入れながら、エコロジーとフェミニズムの再定義への方向づけを示唆する短評ながら刺激的な記事です。

H・D・ソロー『メインの森一真の野性に向う旅』

小野和人氏による訳業が、このほど「講談社学術文庫」に収められました。『ウォールデン』のソローとはまた違った側面を提起する問題作の邦訳です。今後のソロー理解に一層の寄与が期待されます。

ます。

東京地区ネイチャーライティング研究会報告

4月から6月までの研究会では次のような作品をとりあげました。

4月17日: Michael Pollan, "Why Mow? The Case Against Lawns" / John Elder, "Wilderness and Walls" / Terry Tempest Williams, "Lion Eyes"

5月5日: John Haines, "The Writer as an Alaskan" / Edward Abbey, "The Great American Desert"

6月19日: Annie Dillard, "Nightwatch" / Wendell Berry, "The Making of a Marginal Farm"

詳細は省きますが、アメリカの市民生活において芝生の手入れが持つ社会的意味(Pollan)、自然を支配することと自然と共存することの違い(Pollan、Elder)、脅威としての自然と讃美の対象としての自然(Williams)、regionalismの擁護(Haines)、グロテスク風文体の特徴(Abbey、Dillard)、転向のナラティブのスタイル(Berry)などについて

アンケートのお願い
先般、日本のネイチャーライティングのアンケートへの回答を会員諸氏にお願いしましたが、残念ながら期待に反してあまり回答が寄せられませんでした。しかし、皆さまもご承知の通り、私たちASLEJの設立の目的のひとつが日本のネイチャーライティングの発掘であることによりあります。「著者名」、「書名」(出来れば「出版社名」も)だけでも結構です、常時アンケートを受け付けておりますので、ニューズレター編集責任者でもありません大神山のもとにお寄せ下さい。

意見や感想が交わされました。なお、7月にも同様の形式でBarry Lopezの"Apo-
logia" その他を読む会が開かれましたが、この報告は別の機会に回します。

ところで1月から始まったこの研究会、Slovic氏言うところの「ジプシー・
スカラー・ミーティング」はここでいったん幕を閉じます。しかし、新たに、上智大学アメリカ・カナダ研究所内に会場をお借りしてより強力な研究会が発足する予定です。(石井 倫代)

LITERATURE AND ENVIRONMENTAL ISSUES - Bernd Stevens Richter PROJECTED SYLLABUS FOR MIYAZAKI INTERNATIONAL COLLEGE

Annotations with * mean that I use these books as sources for my classes here

*Susan J. Armstrong and Richard G. Botzler. *Environmental Ethics: Divergence and Convergence*. New York et al: McGraw-Hill, 1993. ISBN 0-07-002608-4 Discussion topics, Class Discussions, Class Exercises, further reading; p.o.v., chapters on science, philosophy, history, aesthetics, economic/political/legal issues, anthropocentrism, individualism, ecocentrism, Judeo-Christian perspectives, multicultural standards, Assisi, Aquinas, Descartes, Kant, Albert Schweitzer, Thoreau, Muir, college textbook - wide range, good for any purpose.

Andrew Dobson, ed. *The Green Reader: Essays toward a Sustainable Society*. San Francisco: Mercury House, 1991. ISBN 1-56279-010-2. chapters: Green critique, Green society, economics, political strategies, philosophy. standard authors, Petra Kelly, Rudolph Bahro, alternative concepts.

Lorraine Anderson, ed. *Sisters of the Earth: Women's Prose and Poetry About Nature*. (Vintage Books) New York: Random House, 1991. ISBN 0-679-73382-5. chapters on her (nature) - kinship, pleasures, wildness, solace, creatures, rape, healing, standard authors, fiction writers, native American, for my taste a fuzzy, mystical, mother-earth/earth-mother-feminism - do you like that?

Daniel Halperin, ed. *On Nature: Nature, Landscape, and Natural History*. San Francisco: North Point Press, 1986. ISBN 0-86547-284-X. nature history, meditative and descriptive pieces, bibliography nature writing, standard authors, on Pliny, Calvino, Oates, good book.

John A. Murray, ed. *A Republic of Rivers: Three Centuries of Nature Writing from Alaska and the Yukon*. New York Oxford: Oxford University Press, 1990. ISBN 0-19-506102-0. parts 1741-1866: Russian America and the Age of exploration incl. Cook Merck, Vancouver, Kotzebue, Chamisso, 1867-1958: Territorial Alaska and the Age of Exploitation incl. Muir, J. London, Rasmussen, 1959-1989: Alaskan Statehood and the Age of Environmentalism incl. standard authors, regionally limited.

*Thomas J. Lyon, ed. *This Incomperable Land: A Book of American Nature Writing*. (Penguin Books) New York: Viking Penguin, 1991. ISBN 0-14-014441-2. Introduction into nature writing 80 pages, bibliography 80 pages, some early writing like W.Wood, W.Bartram, A.Wilson, L.Goodman, Audubon, Nuttall, standard authors, solid work, perhaps standard anthology of nature writing.

Thomas J. Lyon and Peter Stine, eds. *On Nature's Terms: Contemporary Voices*. (The Louise Lindsey Merrick Natural Environment Series. 13) College Station: Texas A&M University Press, 1992. ISBN 0-89096-522-6. standard authors, very recent stuff, earthy, not theoretical or aggressively ecological, variety of form - essay, story, journal, reflections, etc, book for this brotherhood of nature and outdoor people to enjoy.

*Scott H. Slovic and Terell F. Dixon. *Being in the World: An Environmental Reader for Writers*. New York: Macmillan, 1993. ISBN 0-02-411761-7. Every text is concluded by short sections "Analyzing and Discussing the Text" and "Experiencing and Writing About the World" with tasks and assignments, except 4.3 - global thoughts, local actions - American authors, standard, going back to Thoreau, content structured in chapters nature (otherness, beasts, mortality, seasons), human visitors (walking, waters, mountains, journals), world (sense of place, art, spital, aesthetic responses) abstractions (mind, polemics and conflicts, global and local), but also rhetorically: analysis & interpretation, argument & persuasion, cause & effect, comparison & contrast, definition, description, division & classification, humor, narration, process analysis; geographically: US regions, international, textbook - very thoughtful, but: sometimes the texts are pretty short.

Story Earth: Native Voices on the Environment. Compiled by Inter Press Service. San Francisco: Mercury House, 1992. ISBN 1-56279-035-8. contributions 5-12 pages, from the US, Canada, Guatemala, Brazil, Peru, Easter Island, Solomon Islands, Papua New Guinea, Australia, Phillipines, Sri Lanka, Nepal, India, Lesotho, Kenya, Egypt, Finland, interesting and informative.

※宮崎国際大学のバート・リヒター氏の長大なシラバスの一部分を転載させて頂いたが、注釈付き書誌情報として会員諸氏のお役に立てば幸いである。

九州アメリカ文学会

本年度の統一テーマは「文学と環境」。これにそって月例会が積み重ねられる予定です。また来年春の九州アメリカ文学セミナーでは二日間にわたり、講演や研究発表が行われます。詳細は未定ですが、本研究会と密接なつながりをもつテーマの展開に大きな期待が寄せられます。

事務局 〒810 福岡市中央区六本松 九州大学言語文化部内

中・四国アメリカ学会

第22回大会が下記の要領で開催されます。とくにシンポジウムは「アメリカ研究と『環境』」。奮ってご参加下さい。

日程： 11月5日(土) 研究発表4
6日(日) シンポジウム 9:30~12:00
シンポジウム アメリカ研究と「環境」

司会 伊藤詔子(広島大学)

発題 1 上岡克己(高知大学) ソロウに始まる nature writing
2 本畝叔子(広島大学) 環境訴訟判例分析
3 岡島成行(読売新聞) アメリカ環境保護運動の歴史

会場： 広島修道大学(広島市沼田町) 広島空港より高速で約40分



秋季談話会のお知らせ

10月に名古屋で開催される日本アメリカ文学会全国大会に合わせて、ASLE-Japan/文学・環境研究会の秋季談話会を開催します。「談話会」は、「研究会年次大会」と違って、もっと自由で気軽な雰囲気読書の会です（決して研究発表の場ではありません）。地区別談話会も、たとえば東京や中・四国などで始まっていますが、まだまだメンバー数が限られているため、そうしたグループを形成しにくい地域も多いと思います。それを補う意味でも、メンバー間の交流を深める意味でも、さまざまな機会をとらえてこのような談話会を今後も企画してゆきたいと思います。

今回は研究会設立後、全国レベルでメンバーが集まる初めての機会でもあります。具体的な作品をめぐるディスカッションを通じて、さまざまな声を聴くと同時に、今後の研究への方向も併せて議論の対象としたいと思います。初めての方もどうぞ遠慮なくご参加下さい。要領は次のとおりです。なお、これらの会場の手配は運営委員が中心となって当たっていますが、飲み物やおやつなどの手配はしていません。当日、手分けして買い出しに出かけるなりしたいと思います。ご協力下さい。持ち込みも大歓迎です。

また終了後、場所を移して懇親会を催します。当日、談話会の会場での出席の可否をお知らせ下さい。

日時：10月9日（日）

談話会 午後1:00～5:00

懇親会 午後6:30頃より 名古屋市内のどこか？

場所：名古屋外国語大学

（名古屋駅より地下鉄東山線藤ヶ丘行き乗車、上社下車。スクールバス利用可。）

内容：談話会 次の作品を読んで自由にディスカッションしたいと思います。作品は各自ご入手下さい。

1 発題 岡島成行氏（予定・讀賣新聞）

Text: ジョン・ミューア/岡島成行訳『はじめてのシエラの夏』（宝島社、1993年）

John Muir, *My First Summer in the Sierra*. Boston: Houghton Mifflin, 1911. Reprinted 1979.

2 発題 木下 卓氏（愛媛大学）

Text: ロバート・フィンチ/村上清敏訳「鯨のように」（『フォリオa』2号所収、ふみくら書房、1993年）

Robert Finch, "Very Like a Whale," from *Common Ground*, Norton, 1994.

3 発題 中村邦生氏（大東文化大学）

Text: ローレン・アイズリー/野田研一訳「川の流れ」（『フォリオa』2号所収、ふみくら書房、1993年）

Loren Eiseley, "The Flow of the River," from *The Immense Journey*. New York: Random House, 1957.



AUDUBON: Brown Tree-Creeper

事務局ニュース

事務局・会計

◎お願い

正式登録がお済みでない方は、ニューズレターに添付された「入会申し込みカード」に必要な事項をご記入の上、事務局宛ご返送下さい。同時に、同封の「振替用紙」で単年度会費をお振り込み下さい（多年度にわたる場合は、その旨を事務局までご通知下さい）。

◎お知らせ

1) 発足以来、個人あるいは法人単位での寄付をいただいております。有り難

うございました。内訳についてはニューズレター次号で、あらためてお知らせいたします。

2) 読売新聞および『英語青年』などで本会発足をお知りになった方からの入会申し込みをいただいております。ご連絡をいただいた方については、即座にメーリング・リストに記録し、入会手続き書類をお送りするよう手配しています。

3) 1994年9月1日現在の会員数は71名（大学院生7名）です。

ニューズレター編集部

◎お願い

ニューズレターへの寄稿、随時受け付けます。とくに、さまざまな情報については、編集部だけでは行き届かない面が多々ありますので、ご協力下さい。出版・学界関係の情報など何でも結構です。寄稿はフロッピーディスクでいただければ一番便利ですが、手書きでもご遠慮なく。また電子メールでも受け付けております。

役員会開催のお知らせ

研究会発足後初の役員会を下記の要領で開催します。役員・運営委員の方々のご参集下さい。集合場所および時間はアメリカ文学会「懇親会」の会場に午後8:00とします。会議の場所をどこにするかは未定です。付近の喫茶店などを当日物色しましょう。

集合日時：10月8日（土） 午後8:00「懇親会」会場

- 内 容：1 会員登録状況報告
2 会計中間報告
3 95年度行事日程検討
4 運営委員役割分担
5 その他

from editorial staff

■5月のASLE-Japanの発足から4カ月余り、ようやくニューズレターの1号が発行できました。記事やグラフィックのレイアウトなどはすべてマッキントッシュ上でPageMakerというソフトを使って行っていますが、ソフトに充分通曉していない上に、使用しているマシンのパワーが不足気味であったために予想外に時間がかかり、予定よりも1カ月ほど発行が遅れてしまいました。今夏の記録的な猛暑も悪条件のひとつでした。しかし、何はともあれ、10頁に及ぶ充実した内容の

ニューズレターがお届けできますのも、ご多忙にも関わらず記事を書き送って頂いた会員諸氏のお陰です。この場を借りて改めて皆さまに感謝いたします。■次号はいつにするかまだ未定ですが、ネイチャーライティングに関する内外の書籍の書評や書誌情報をまず充実させるとともに、エッセイ（ネイチャーライティングに関するものばかりでなく、ネイチャーライティングの実践的試みでも結構です）やシラバス、またASLE-U.S.ニューズレターの記事なども掲載したいと計画しております。また、本会の活動

と関わりのあると思われる各種情報も出来る限り載せたいと考えておりますので、事務局もしくはニューズレター編集委員宛にお送り下さい。■なお、ご寄稿して頂く場合、電子メールや、フロッピーディスクで送って頂くのが面倒がなく一番有り難いのですが、マッキントッシュ以外の機種をお使いの場合はMS-DOS形式に変換して頂ければと思います。もちろん手書きでも大歓迎です。■最後になりますが、本ニューズレターについてのご意見もお寄せ下さい。（J）



ASLE-JAPAN
文学・環境研究会
NEWSLETTER

NO.1

1994年9月1日発行

【発行】

ASLE-Japan / 文学・環境研究会
事務局 金沢大学教育学部英語研究室
野田 研一

〒920-11 金沢市角間町

Tel. 0762-64-5524 Fax. 0762-64-5616

【編集】

編集委員 大神田丈二 / 石井 倫代
ニューズレター編集室

入会を希望なさる方々へ

ASLE-J/文学・環境研究会（ASLE-Jはアズリー・ジェイもしくはアズリー・ジャパンと読んで下さい）ではネイチャーライティングに関心のある方々の入会を常時受け付けています。入会希望者は、3ページの「ASLE-J/文学・環境研究会 会則」を熟読の上、下のASLE-Japan 入会申込カードに必要事項を記入して、事務局宛にお送り下さい。カードの部分を切り取り、葉書に貼付して送って下さっても結構です。

なお、本研究会についてのお問い合わせも事務局で受け付けております。

キ リ ト リ セ ン

ASLE-Japan 入会申込カード[事務局用] 受付 年 月 日

氏 名	フリガナ	
住 所	〒	
電話番号	() —	FAX
勤 務 先		職 位
所 在 地	〒	TEL FAX
専 門 領 域		
関連領域 [著書・論文等]		

